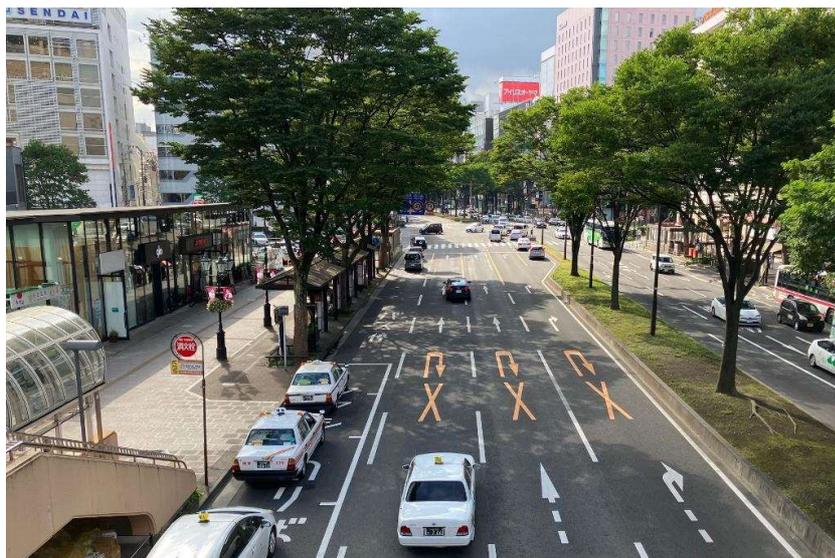


1 社会実験の実施概要 (1) 実施概要

実施内容：仙台の顔としての新たな賑わい創出に向けた公共空間の利活用

期 間：令和4年9月23日（金）～10月10日（月）の18日間

交通規制：車線数の減少、一般車通行止め（バス・タクシーのみ通行可）、
旧さくら野前・ほうげつビル前へのバス停の移転



実験前(EDEN側)



実験中(EDEN側)

【参考】社会実験とはなんだったのか

地元webメディア「ウラロジ仙台」の協力の下、記事にまとめていただいています。

<http://urarozi-sendai.com/spot/6306/>



(2) 社会実験で生まれた風景



突発的に発生したダンスとそれを楽しむ歩行者



YOSAKOI参加者が休憩中



親子連れの空間



近場の保育所からのお散歩
(平日午前)



ストリートピアノを楽しむ歩行者



見知らぬ人同士がたき火を囲んで交流
奥の沿道店舗施設との連続的な空間



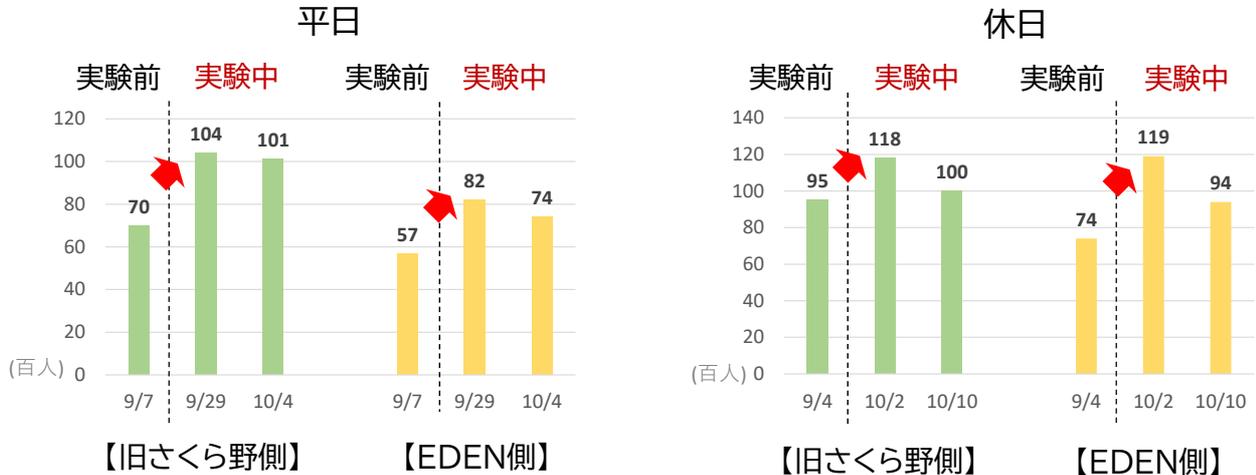
歩道やペDESTリアンデッキからステージを眺める歩行者

2 検証結果

(1) 来訪者の特徴、市民の意向

① 歩行者交通量の変化

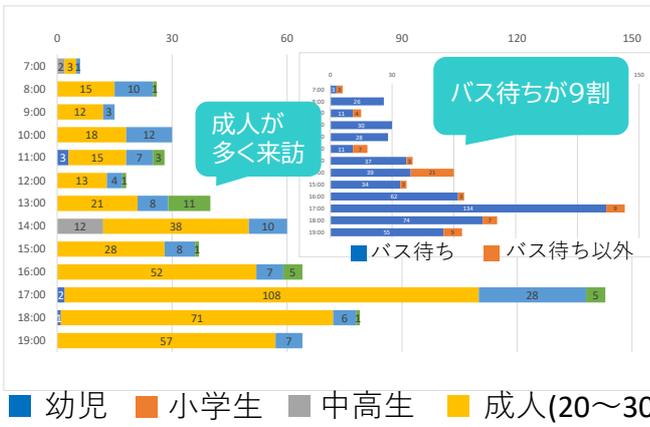
旧さくら野側、EDEN側とも、実験前と比較して歩行者交通量が増加



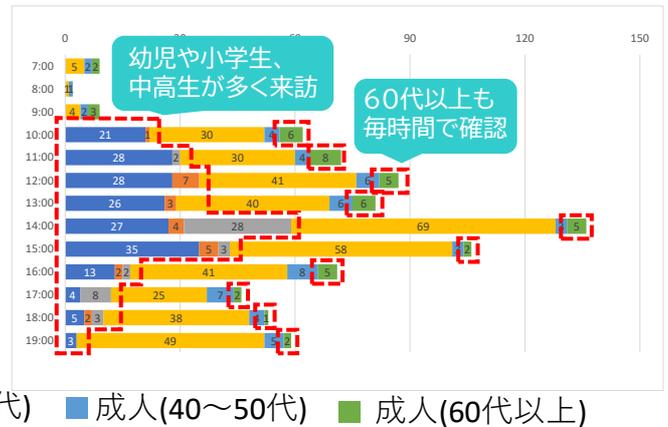
② 来訪者の変化

普段の歩行者は20代～50代のバス利用者(学生、会社員)が大半
実験中は幼児や小学生などの親子連れ、中高生などが大幅に増加

実験前(9月4日(日)):利用者年齢【時間帯別】



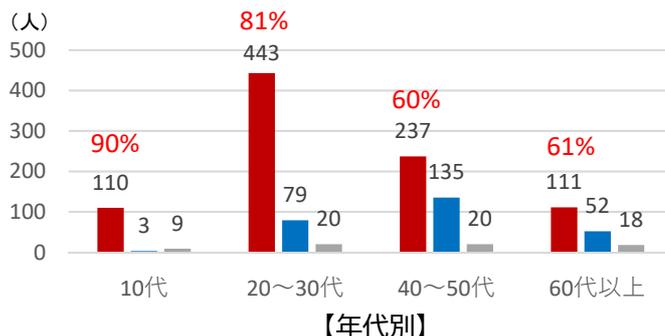
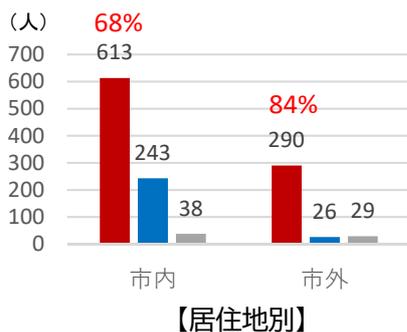
実験中(10月2日(日)):利用者年齢【時間帯別】



③ 取組み評価に関する属性別回答

「良い取組み」との意見が全体の7割、30代までの若い世代、市外居住者では8～9割

※回答数 1,239件 (非来訪者含む) うちWEBアンケート(880件)、現地聞き取り調査(359件)



■ : 良い取組みだと思う ■ : 良い取組みだと思わない ■ : どちらでもない

(2) 交通への影響

④ 交通の混雑

社会実験の交通規制に伴う迂回により、広瀬通と仙台駅近傍で混雑が発生した



広瀬通の混雑



仙台駅近傍の混雑



社会実験期間中の交通規制に対するバス・タクシー事業者の声

アンケート調査より

⇒「周辺道路等における交通混雑の影響があった」

「一般車の誤進入対策が必要」

「バス停付近での混雑の影響があった」、などの意見を頂いた

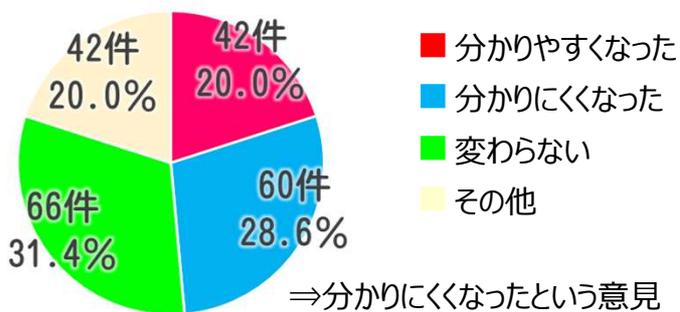
⑤ バス停留所

バス停留所の集約により、バス待ち行列が歩行空間へあふれる時間帯があった
市民からはバス停留所が分かりにくいとの声があり、実際に誤乗車が発生した



バス待ち利用者のスペース不足

社会実験期間中のバス停集約に関するバス利用者の声



⇒分かりにくくなったという意見が多かった

その他意見...

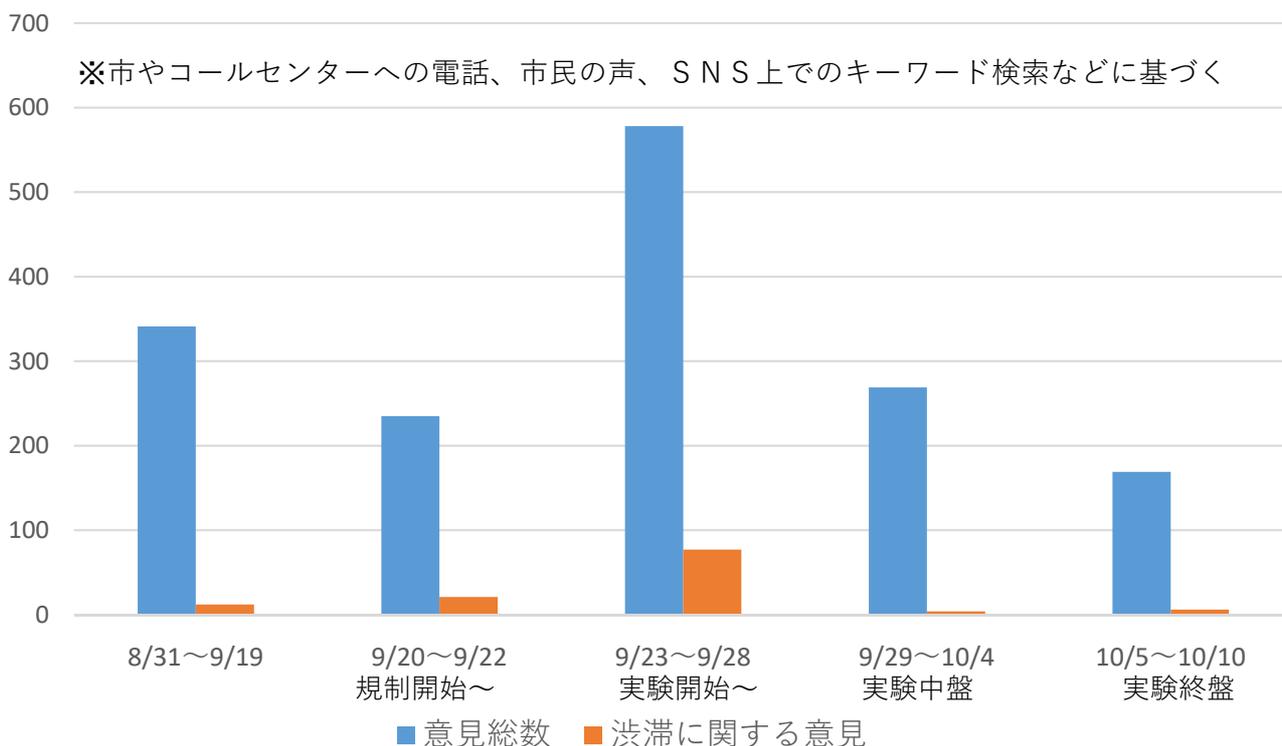
- ・普段よりもバス乗り場が混雑していた
- ・待つ場所が分かりにくかった
- ・集約を知らなかった、等

⑥ 意見数の推移

「周辺道路の混雑、駅へのアクセス性悪化」について、交通規制開始から1週間程度は多く意見が寄せられたが、その後は落ち着きを見せた

(件)

意見数の推移



(3) エリアづくりの視点に基づく検証

視点1 仙台の顔としてのエリア

- ・『楽しい』、『嬉しい』、『驚き』など第一印象として好印象を与えることができた一方で、『困った』（渋滞など）のネガティブな印象も与えた。
- ・『普段は地下道や他の通りを通行しているが、実験中は通行した』など、歩行者の通行ルートに変化をもたらした。
- ・ベンチなど滞在環境創出により「休めることで他のエリアに行きやすくなった」等の意見があり、周辺の歩行者交通量の増加なども見られた。

視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア

- ・平休日に関わらず、幼児や小学生等が増加し、来訪者属性や活動に変化をもたらした。
- ・交流体験を重視したコンテンツにより、来訪者の約6割が『交流を持てた』と回答し、来訪者の半数が30分以上滞在した。

視点3 エリア価値向上のために挑戦するエリア

- ・20代～30代で構成した社会実験準備事務局による企画運営や、学生団体など63団体によるコンテンツ実施など、若い世代を中心とした多様な主体が関与できた。
- ・来訪者から『くつろげる・休憩できる空間』、『イベント開催』、『飲食』、『ストリートピアノ等パフォーマンスができる場』、『交流できる場』等を求める声があった。
- ・沿道の一部飲食店舗では、連携した取組みの他、テイクアウト増加、休日の家族連れ、若い世代の来客が増加したことなどによる売上げ増加が見られた。

3 社会実験結果のまとめ

(1) 評価点

- ・ 取組みに対する強い関心を引き起こし、特に若い世代（10代～30代）や市外来訪者を中心に好印象を与え、高い評価を得たことは「仙台の顔」となるエリアの将来の姿や「表情」につながるものである。
- ・ 仙台の強みである若い世代を中心とした多様な主体が、統一したブランディングに基づくデザイン、空間、交流体験を重視したコンテンツにより、新しい賑わいと魅力を生み出すポテンシャルを確認できた。
- ・ 幼児や小学生などの親子連れや高齢者など、普段とは違う層が来訪し、多様で多世代にわたる交流の場となることが確認できた。
- ・ ペDESTリアンデッキ上で足を止めて眺める方が多くいるなど、このエリアでの取組みがきっかけとなり、まちへの回遊の起点となるポテンシャルを確認できた。

(2) 課題

- ・ 「実験目的が分かりにくい」という意見が一定数あり、発信を強化する必要がある。
- ・ 悪天候時の対応や、仙台の気候の特徴を踏まえ、年間を通して活動、交流、滞在を生み出していく工夫が必要である。
- ・ 沿道店舗との相乗効果を生み出すためには、連携を意識した取組みが必要である。
- ・ 都心の回遊性向上に向けては、駅前エリア単体での取組みだけでなく、周辺エリアとの連携など都心全体での取組みが必要である。
- ・ エリアでの活動をコーディネートする人材や、ブランディングを含めた企画、デザイン、広報等の役割を担う人材など、体制を継続的に整えることが必要である。
- ・ 将来のビジョン策定の際には、今回の実験で得られた交通課題を活かし、必要な対策と合わせた道路空間のあり方を検討する必要がある。

4 今後の進め方

- ・ 社会実験の結果を踏まえ、エリアに求められる機能、空間とその規模等について、様々な意見を反映させながら、令和5年度末の将来ビジョン策定に向けて検討を進める。
- ・ 将来にわたり持続的に取組みを実施・運営していくため、多様な主体と様々な役割の担い手の発掘、育成を進める。